

合発本番に向けての「わしらの朝は・・・」のレッスンに作曲家・明仁さんが来訪！

8月19日

□8月19日(金)18:00~20:30ねむかホールで定例レッスンが行われました。奥村さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングに始まり、本並先生の指揮で、合唱発表曲「白樺」「わしらの朝は海からはじまる」の2曲を直近の21日(日)の「市内南部地域合唱発表会」を間近に控え、本番リハーサル並みの真剣さで取り組みました。ピアノは森二三さん。参加者は全40名でした。



□今日のレッスンには、「わしらの朝は海からはじまる」の作曲家・明仁憲一さんが来訪されました。レッスンの冒頭、指揮者本並先生からの紹介のあと、昇団員に「わしらの朝・・・」の作曲経緯を中心に曲の要点を簡単に説明されました。

○この曲が作られた時代は、関空の建設とともに、「泉州の乱開発」反対が問題になっていた時代、それらに関連して4つの詩が作られ、その中から「大阪湾の漁業を守ろう」との思いを込めたこの漁師の歌のみが残りました。

当時の「泉州の乱開発」は地域の環境破壊と行政への財政赤字のみを残したものとして問題を残しました。そのような経緯を背景にしてこの曲はできました。

○曲については、佐伯洋先生から贈ってもらった詩に飛びついてすぐ創りました(1985年作)。元唄として宝木実さんが採譜した明石の黒鯛の漁師の歌が参考にある。「ヨーシドット」のかけ声もそこから採られている。調子は全く同じではないと思うが。

○「シ」を抜いた和旋律をいくつか取り入れている。また「シ」を入れて洋旋律にするような工夫もしている。

○「ヨーシドット」はバリトンには迷惑をかけている。波の高低を意識して・・・

53小節～の「ふかいうみから」以降もっとレガート感が欲しい。その前は「シャキシャキと」歌って！
鼻のこれだけの人数からは、例えば、出だしでも途中からでもいいから高い音の部分に「テノールソロ」を入れたりしても面白い。いろいろ工夫をしてください。

連絡事項・報告事項等（8月19日運営委員会がありました。）

（1）「第11回鼻コンサート」の実現に向けて

①会場確保の問題：来年12月開催を目途に、1,000人規模の会場探しをします。衛星都市の数か所のホール等、1年前の申し込みを行えるように調査・準備をしていくことになりました。

②技術部会からの報告を兼ねて：どんな曲を取り上げるか？コンサートの内容について技術部を中心に議論が進められています。候補曲として、「追分節考」「日日草」「鶴」「花の歌」「フィンランディア」「峠の我が家」石若編曲作品「君死にたもう（男声合唱版）」「この道」等々

なお、聴衆がよく知っている親しみやすい曲を1/3程度入れることも考えては・・・ということで大島委員の担当のもと、調査検討しています。選曲について「ぜひこのような曲を歌いたい」という曲があれば大島さんへ提案ねがいます。

（2）「第6回団内コンサート」について

8月28日（日）14：00～ねむかホールにて開催します。20名のソロ、1名のアコーディオン演奏、3パート（BR・BSは合同で）の合唱、2名のピアニストのソロ演奏と多彩な内容です。ご期待ください。知人友人の方々にもお知らせ願ひ、お誘いあわせ下さい。

（3）「2016鼻総会」の開催について

8月28日（日）～29日（月） 新大阪ユース
28日（日）17：30 現地集合、18：00～夕食・懇親、

29日（月）総会：9：00～、13：00～レッスン
（タオル・洗面具・パジャマ持参のこと。）

「総会議案書」が配布されました。当日欠席の団員は「事前文章発言」にて意見を述べていただくようお願いいたします。パートリーダーまたはパートマネージャーへ提出ねがいます。

（4）「沖繩に心をよせる平和のつどい —会沢芽美さんとともに—

とき：2016年9月6日（火）

13：30開場・14：00開演

ところ：ねむかホールにて

沖繩に心をよせる平和のつどい
～会沢芽美さんとともに～

20歳の女性が、元米兵に殺害された事件から2カ月が過ぎました。傷ましい事件が繰り返される沖縄！1972年に本土復帰してから基地は縮小どころか拡大するばかり。「辺野古、高江に新たな基地は造らせない」の圧倒的な沖縄県の民意をふみにじり、安倍政権は参院選挙が終わった翌日から高江に全国から機動隊を集中させ、オスプレイパットの建設を強行しています。これは狂気です！いま、私たちは、沖縄の現状をまず知ることが大事ではないでしょうか？沖縄のメッセージシンガー会沢芽美さんは全国に沖縄の思いを発信しています。ともに歌い、語り合い、沖縄の思いを共有しましょう。どうぞお越してください。

9月6日（火）
13時30分開場 14時開演

ねむかホール
(谷町6丁目新谷町第2ビル308)

会沢芽美（あいざわめぐみ）の歌と一人芝居

「命の海の話」

ジュゴンが住む豊かな海に、危険な首天間基地を移設することが決まって以来そこでは地元のオジー、オバーを中心に海を守るため・命を守るための座り込みがねばり強く続けられています。ここで登場するのは「基地でお金が入るサー。上等な暮らししたいって思ってたどこ悪い？」と、基地賛成だったお母さんです。が、ある日海を守る人々の命がけの姿を見てしまったお母さんは…

他に、新婦人中央支部ルンロン、男声合唱団、の演奏も予定しています。

参加費 1000円

「沖繩に心をよせる平和のつどい」実行委員会
お問合せ 立川孝徳 090-6058-5652